



御初穂にひびく

福岡県市立小倉幼稚園長

大浦 キミ

奉齋殿の聖らかなるよろこび稻のお初穂が御縁さなりまして此稿を書かして頂き私の幼稚園の一端を物語る光榮を心から感謝致します。

花咲く四月に可憐なる姿にて入園しあたかも春野に萌え出た若草の様、やがて夏もすぎ紅葉織りしく秋の日は足きりも勇しく心にひびく幼稚園生活の嬉び目に見る耳に聞く總べての幼稚園の日は心も身も充實しやがて寒い冬も嬉しいお友達三年を重ね、學校だ學校だご希望にもえる子供心に再び訪れた花さ鳥に送られなつかしい幼稚園におさらばして人生の第一歩輝かしい學校生活に入るあゝこのめぐる一年なすきはなしに物をなし唯遊びの生活に送り迎ふる今日と明日目が覺むれば幼稚園寢ても幼稚園、なつかしい先生ご好きなお友達ご思ふ存分事も足も伸ば幼稚園この幼稚園は幼い心に何を贖けごませうか、何を心の底に植えつけませうか、全生命を投げ出し先生ご呼ぶ心ご目に與ふる真心、伸び行く幼い生命育ち行く靈感にまつ植えつけ根強く育てたい物は我國體の精神だご思ひます。有難い御國心で健康なる身體、豊かなる精

神は神に通じ國に捧げる國民としての誠の道を幼いながら心得て唯喜ぶ日本の子供心 天皇陛下の忠良なる赤子として感謝して育つ子供に致し度考へて居ります。

教へるでない學ぶでない幼稚園の保育、遊んで居る中に物を學ぶ保育なく一朝一夕に研究しきれない澤山の問題を與へられて居るのでございます。中でも物に感じやすい幼児にまじりましては環境の整理は誠に大切な事だございます。昔から孟母三遷なごも誠によい例でございます。學ぶまじりに物學ぶ子等の爲に導く保育者の立場は誠に大なる使命を帯び幼児の個性をつくる根柢だま存じます、こゝに將來ぬぐふ事の出来ない三つ子の靈百迄の育ちの心を思ふ時私共は充分に責任を感じます。

奉齋殿と齋庭の稻穂

昭和十二年七月七日蘆溝橋事件に端を發した事變は皇運の御光輝四方に普ねく今や時局は東亞新秩序建設の段階に入り國家の總力を擧げて斷乎邁進すべき秋皇國百年の將來に現下の難局を案じ私等幼児の教育者は其重大さを痛感し家庭に手を握り層一層精神の基礎を培ひ健康なる幼児に育てねばなりません。

本園は明治二十三年四月の創立昭和八年十一月十五日新園舎建築後教育の中心をなす可き尊皇敬神崇祖の念を養ふ

爲に園庭中央に神明造りの奉齋殿を昭和十四年二月十一日に建立竣工伊勢の大麻を御奉戴申し其莊嚴味を添ふる爲に外園内園をそれらに風格を備へた樹木の植え込みにより六月一日築庭の竣工を見ました。

日本紀神代卷

天照皇太神は建國の當初に皇孫瓊々杵尊を此國土に君臨おさせ下されませ時、天壤無窮の御神勅、天津神籠天津盤境の御神勅、齋庭稻穂の御神勅、を給りまして「勅曰以吾高天原所御齋庭之穂亦當御於吾兒」。

天照皇太神は保食神より五穀の種を御取り下されまして大變御嬉び遊されこは愛しき蒼生^{アヲシキキ}の食いて活くべきものなるぞ、これは我親愛なる天下の蒼生の生命をつなぐ大切なるものであるぞま仰せ下さいまして秋の收穫が終りますま吉日を撰び齋戒沐浴せられまして神祇をお祭り下され御自身も食召し食し得たる欣びの感謝を神様に御禮下され尙且つ天下の蒼生も不足なく食ひ得る方法、作法なご御教慮下さいました。この誠に有難い古事を偲び奉り奉齋殿の兩脇に細長い聖き稻田(正田副田)をしつらへ初夏六月には稻苗を植え保母、幼児勤勞奉仕により敬神保育、觀察保育の心うれしき神様への御つかへまつりをさせて頂きながら長い夏もスク／＼伸び行く稻穂の成育を感謝しながら幼児ま保母が手をそろへ丹精にこれを育て都市の中央然も御神

殿脇に、端穂の國の稻穂が拜み誓ひにより、此秋は可愛
い稲田に黄金の波ゆらぎ百雀の飛び交ふ等神々しき繪の如
き園庭に於ける數株、これぞ金粒と呼ばして頂き度、紅葉
の如き幼い合掌の賜なる聖なる稻穂を十月五日に苅りこり
まして特に青少年學徒に勸語御下賜の日を選び十月二十二
日に縣社八坂神社、小倉市役所奉安殿、官幣大社箱崎宮、
天神様、幼稚園の總本家東京女子高等師範學校附屬幼稚園
に御供へ申上げました。各神社はこの幼い兒達の手に出來
た數本の御初穂を新嘗祭にお供へして皇國の御榮えを御祈
願下さいまして、其教育的意味を最も強調し神に御祈願頂
く喜びを幼兒と共に深く感謝致しながら當園としては昭和
十四年十一月十日精神作興詔書下賜記念日に家庭全部を御
招待申上げ奉齋殿前に於ける獻穀祭、幼兒の爲の幸福、健
康の向上及無事息災を祈る七五三のお祝、御凱旋の御父兄
様の爲に御歸還報告祭を致しました。

明治天皇御製

打ちつれて園に遊ぶ子供等は

學ぶこなしに物學ぶらむ

勿體ない御製の御精神を拜承致しまして此非常時局に於
ける國家觀念の養成に立脚し生活の中心を皇室中心に結び

つけ、氏より育ち三つ子の魂百までの環境に支配される此
時期に學ぶこなしに物學ぶ心の底に動かぬ信念を植ゑつけ
家庭、幼稚園一丸となつての保育がしたいと念願しながら
幼稚園全體の施設に國家的觀念のみなざる様、保育の道に
いそしんで居ます。幸にかゝる行事の折家庭全部御出席行
事を遂行し實質剛健幼兒は只一枚の制服にて式日はネクタ
イを用ゐ、國策に順應し内に外に萬ゆるぎない保育をこ念
願致して居ます。十一月十日の獻穀祭、七五三のお祝、凱
旋報告祭と三重奏のお祝日には御神前に自作の稻穂（別紙
寫眞の通り）を中心にお飾りをし神宮を迎へて祓式、祝詞
奏上、玉串奉奠等の祭典及記念式を行ひ、幼兒達にお土産
として輝く御門の特技、御父兄様と凱旋の勇士様方には齋
庭の稻を交せてついた赤白のお鏡一重宛を記念に差し上げ
ました。會合して下さつた御一同様は大變満足なさいまし
て談笑裡に歸宅なさいました。尙奉齋殿は日々清淨にして
保姆幼兒の勤勞奉仕の後朝の禮拜をなし保育にまひり
ます。神様の靜まります幼稚園入退出には父兄も幼兒も禮
拜を致します。

塵一つ止めぬ神域は誠にすが／＼しい氣分を養ひ只神前
に於て、祈りの生活の中に、國家觀念に立脚して、底力の
ある精神力と、體力の養成を著眼點と致し毎日の保育を感
謝と歡喜の中に致して居ます。

曉を拜して

皇紀二千六百年、聖戰第三のお正月、當園創立五十週年卒業園兒五千五百名、私が勤續二十年、福岡縣に於ける唯一の公立幼稚園、昭和十五年の初頭、聖らかなる曉を拜して省れば向ふべき永遠の保育の道に限りない責任を痛切に感じ、慈愛のふさごころに幼兒を活かし幼稚園の伸展向上、明朗なる強き正しき子供として人生の基礎を作り幸福で健康なる様に、靜かに神に念願して奉齋殿の御前にぬかづきました。

幼兒の爲の念願

- 一、幼兒を家の寶、國の寶として養護させよう。
- 二、皇道精神の高揚に務めさせよう。
- 三、情操の陶冶を強調致させよう。
- 四、日常生活の向上を計りませう。
- 五、國體生活の訓練を致させよう。
- 六、意志訓練の強化を計りませう。
- 七、知育は加味する程度に致させよう。
- 八、國際親和の精神を養ひませう。
- 九、まづ健康なる様注意致させよう。
- 十、よい習慣性のつきまます様訓練致させよう。

保姆の爲に(保育十訓)

- 一、力を盡せ幼兒擁護愛せよ敬せよ強く育てよ。
- 二、環境のよい幼稚園とするは保姆の任務。
- 三、幼兒の生活を基として、其の日の保育の出發點とせよ。
- 四、言行共に上品にして幼兒の反響よろしいか。
- 五、保育は幼兒を中心として保姆はマネージャーたる事。
- 六、強い信念と優しい心情を持ちて幼兒に對せ。
- 七、志操は豊富にして幼兒にあたるに簡易なれ。
- 八、幼兒の心的状態を洞察して臨機の誘導をなせ。
- 九、時間は守つて、時間に捕はるゝな。
- 十、個性に注意して、全體を忘るゝな。